

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 3 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470102884		
法人名	社会福祉法人 可部大文字会		
事業所名	グループホーム（山まゆ）フルーツハウス		
所在地	広島市安佐北区大林4丁目10-26 (電話) 082-810-5585		
自己評価作成日	令和4年2月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470102884-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470102884-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年3月17日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

個々の生活リズムに合ったケアを常に考え実践している。起床時間や入床時間等好きな時間に行き、入浴時間や頻度の調整、日中の過ごし方（レクリエーション等）を自己決定出来る様に支援している。毎月フロア会議・ケア会議を行い情報を共有し、ケアの統一に役立てている。地域交流も盛んに行っており、近隣の保育園、小学校への行事参加や地域行事の参加、手伝い等地域に共生した活動をしている。現在はコロナ禍で参加出来ないのが残念です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム(山まゆ)フルーツハウスは、職員が一丸となって、積極的に利用者の笑顔を引き出す支援を実践することで、利用者一人ひとりが光輝く人生を送ることが出来るように取り組んでいる。利用者全員で普段行かれないような場所へ車で出かけたり、大晦日には古くからの日本の慣習を尊重し、全ての利用者が入浴し新しい年を迎えられるように支援している。事業所では、園芸療法士を中心に野菜や花を育てており、利用者の役割や生きがいとなるほか、毎日の食事に取り入れて匂を味わったり、押し花に加工して趣味活動に活用したり、近隣住民との話題や学校交流のきっかけにも繋がっており、園芸が多くの実りをもたらしている。

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各階に理念、行事計画を常に目に入る位置に掲示している。会議等の前には、参加職員で唱和し、理念の共有、行事計画の理解を図っている。また、行事計画の進捗状況については、会議等で振り返り、評価を行い日頃の業務に活かせる体制を整えている。	年に2回個人面談を実施し、目標設定や課題に直面した場合に理念を指標とし活用している。地域交流が制限される中でも、ソーシャルディスタンスを保ち、地域住民と挨拶や会話を続けている。職員が利用者の笑顔を積極的に引き出し、明るく光輝く生活が送れるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、とんど等の地域行事や近隣の保育園、小学校の行事に参加し地域との交流を積極的に図っている。今年もコロナ渦により、地域の行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加出来ない現状がある。	ボランティアの訪問や、小学生との交流機会は減少したが、日頃から意欲的に近隣住民との関わりや交流を行い、地域情報を共有している。地域の中学校から依頼があり、花の苗を預かり事業所の敷地で育て、その花で卒業式の花道を飾る活動を毎年継続して実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者様の動向等を家族代表や地域代表、行政へ報告しサービス状況等を把握して頂いている。また、地域連携が出来そうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。	感染状況を鑑みて、関係者を招集して開催できなかった月もあるが、事前に意見を聴取して報告書の作成と送付を行った。できる事は自分で行ってほしいと家族から要望があったことから、おやつ作りに利用者が参加するようになり、自主的に作業してくれるようになった事例がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	推進会議の開催通知を、広島市社会局介護保険課事業者指導係宛てにFAX送信している。その他には安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。	運営推進会議報告書は本部の担当者から区や、地域包括支援センターの担当者へ送付している。生活課担当者が年に1度訪問した際に利用者の状況報告を行っている。地域包括支援センターとは、相互に利用相談や空き情報等の連絡を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会の設置と、研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知理解を図っている。また「身体拘束をしないケア」を事業所全体で取り組んでおり、スピーチロックも含め本人の行動を理解し、ケアの工夫により対応している。	法人が開催する研修に事業所から職員1名が参加し、内容をまとめて資料を作成し内部で伝達研修を行っている。日頃から職員間で身体拘束に関わる意見交換をしており、スピーチロックをしない為に、職員間で連携し即時に対応する事で、「待つて」を言わない環境づくりを行っている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。また職員同士で入居者への言葉遣いや態度についての話し合いをしている。虐待防止委員会を設置している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問や、質問に細かく答えている。また、面会時や電話での対応も行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、サービス担当者会議に欠席された家族様にも要望や意見を伺える様に書類を送付している。意見や要望書は、ファイリングする事で、職員がいつでも見られる状態にし、周知徹底を図っている。	日常的に利用者の意向は、声をかけ聞き取っており、家族に会いたい等の要望がある際は、家族に来所してもらっている。家族からの要望は、面会時やサービス担当者会議、要望書から聞き取ることができる。利用者の元気な姿が見たいとの要望から、家族宛に写真入りの手紙の送付を開始している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>2ヶ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。</p>	<p>毎月開催するフロア会議と、毎日実施する昼礼や、年に2回実施する個人面談で職員の意見を聞くことができる。実際に職員の意見から、コロナ禍で、外出が制限されている利用者の体力と筋力低下を予防する為に、歌を唄いながら廊下を歩き日に1度は運動の機会を設けている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事考課制度を行っている。また、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話やすい職場環境になる様に、普段から調整している。管理者による職員の面談も必要に応じ行い、やりがいをもち、働きやすい職場になるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人からOJTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のレベルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人がOJTでの研修体制となり、集合研修を実施していない。またコロナ禍の影響もあり以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはあまり作られていない。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人と家族の意向、要望、不安点などを、聞き安心して生活で来るように、職員間で情報共有に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご家族、本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。また、職員間で、話し合いより適切なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族の様に何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連携し、家族と共に本人を支えて行くよう努めている。面会の少ない家族にも普段の様子が伝わる様に写真と短文を添えて定期的に手紙を出している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様・知人等、気軽に面会出来る体制を整えている。面会時は個室で気兼ねなく話が出来る様に配慮している。家族との外出や外泊もあり、馴染みの人の関係が継続出来る様に支援している。コロナ禍の影響による面会や外出制限があるが、本人の意向に応じ電話や手紙等も出せるよう配慮し、関係が途切れないよう努めている。	現在は、感染状況を踏まえ、パーティションを設置し時間制限を設け、予約制で面会を実施している。自宅の周りの景色を見にドライブをしたり、車いすの利用者も車で外出する機会がある。利用者から家族に宛てて手紙を書く機会を設け、関係継続を支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出来る事はしていただいている。状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、均一的な介護サービス計画にならない様に努め、日々のケアにも取り入れている。	利用者から発信される日々の思いは、記録し職員間で共有している。意向表出が困難な利用者は、表情を読み取り快か不快かを判断したり、不穏な状態となった原因を職員間で対応方法について様々な側面から検討するように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また生活歴にとらわれ過ぎないように注意し、新しい事にも挑戦出来るよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムを把握する事から始め、24Hシートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向、要望を聞き取り、また担当職員、必要に応じ医療機関、専門職の意見も取り入れ、介護計画作成者が作成、モニタリングし均一でなく、その人らしい介護サービス計画になるよう、反映させている。</p>	<p>モニタリングは担当職員が毎月実施しており、半年に1度又は、状態に変化があった場合は見直しを行っている。見直し時期には、家族へ要望書を送付し意見を聴取し、得意な作業や、楽器での演奏、自主的に行う家事などの強みを活かし、意欲の向上に繋がる計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々に24Hシートに記録し、日々の変化、気付きを職員間で共有する事で、より良い介護が出来るよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、半年で介護計画の見直しを管理者、介護支援専門員、居室担当で話し合い実施している。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの要望を日々のレクリエーションや行事、入浴等に取り入れ幅広く、柔軟なサービスの提供を行い、満足感が得られるように支援している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流会等、地域資源を活用している。今年はコロナ渦により、地域行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加出来ない現状がある。</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に本人、家族の意向に応じてかかりつけ医を決めている。内科は夜間対応もして頂ける事業所の協力医に変更する事が殆どである。歯科については、協力医が必要に応じて事業所に往診して頂いている。また、他科の受診も希望に応じ職員にて対応しており、安心して医療が受けられる体制を整えている。</p>	<p>利用開始時にかかりつけ医について説明し、希望する医師の診察を受けている。専門医への通院は、主に家族の協力を得るが、家族が対応できない場合は職員が同行している。医療機関への情報提供は、口頭や書面、又は直接医療機関と電話連絡を取り円滑に受診できるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間での情報交換、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に様子を伺っている。また、早期に退院出来るよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療関係と連携し、今後の方針について話し合いを持つようにしている。法人本部と常に情報共有し、状態に合わせて特養入所等も促している。	継続して医療行為が必要になった場合などは、主治医から家族へ説明が行われ、希望の確認と方針を検討している。現在は連携している施設への住み替えの希望が多く、看取りの事例はないが、今後は体制を整備し希望があった場合は実施に向けて検討したい意向である。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応が出来るよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気付き報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24hオンコール体制を取り職員の不安軽減につとめている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的に実施しており、非常時に備え、メガホン、懐中電灯を常備し、非常食も備蓄している。有事に備えた体制をとっている。また、消防署主催の防火研修に職員が参加している。地域との協力体制を築いている。	職員が広島市総合防災センターの消防訓練実務研修に参加し資料をまとめ事業所内で伝達研修を実施予定である。過去に避難訓練を実施する際に、地域住民に声を掛け参加を促したことがあり、災害時にお風呂を提供した実例もあり、有事に備え協力体制の構築に努めている。	



自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は入居者に敬意を払い、何事にも本人の気持ちを大切に考えケアに従事している。接し方、声のかけ方についても意識し、日々接遇技術の向上に努めている。プライバシーについては、更衣、排泄時扉を閉める、大きな声で言わない等、基本的な事に配慮し接遇技術の向上に努める。	職員は入職時に接遇研修を受けている。日々の接遇技術の向上については、職員同士がその場で声を掛け合い、振り返り、相互に確認し利用者本位に検討するように努めている。排泄の声掛けや確認は、大きな声でしないように配慮し、不適切な場面を見かけた場合は都度検証している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現出来るよう、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず自己決定できるよう努めている。また、言葉で意思表示できない場合は、表情を汲み取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。その際、同じ服を着回しにならない様に努めている。また、定期的に訪問理美容の方に来所して頂いたり、希望に応じ、化粧水等の購入も行っており、身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者のリクエストに答えながら、カップケーキ・フルーツゼリー・おはぎ等のおやつ作りを行っている。また、事業所内にある畑で収穫した野菜を、メニューに加える等、食事が楽しくなる支援を行っている。	朝、夕は業者から届くおかずを温めて盛り付け、昼は関連他事業所の管理栄養士の献立により調理されたものが届く。利用者の希望からおはぎやパフェをおやつで提供したり、季節を感じる行事食や、普段食べられない麺類の献立を管理栄養士と検討する等、楽しめる工夫を行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<b>○栄養摂取や水分確保の支援</b>  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	各階入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。		
42		<b>○口腔内の清潔保持</b>  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後全員に口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実地している。		
43	16	<b>○排泄の自立支援</b>  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄の記録をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。自立の方は、トイレ間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。自分で出来る事は、行って頂き自立に向けた支援を行っている。	オムツを使用しているも、日中はトイレで排泄ができるよう声を掛け誘導し、失敗する利用者は少ない。夜間の排泄はケース検討を行い、様々な方法を試しながら適切な介助を検討している。トイレの場所が分からなくなる利用者に、トイレの方向を矢印で標記し、自立を支援している。	
44		<b>○便秘の予防と対応</b>  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	できるだけ下剤に頼らず起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘予防体操等で腸動を促す事による排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報を共有する事で排便確認の徹底や、長めにトイレに座って頂き、腹部に力を入れ様、声掛けを全職員が行っている。		
45	17	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b>  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に添っている。利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、季節によって菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用したりと入浴を楽しんで頂ける様に工夫している。	入浴に嫌悪感を示す利用者には、直接お風呂に入ろうと誘うのではなく、さり気なく会話をしながら脱衣所へ移動したり、日時を変えて誘うなどの工夫をしている。入浴剤は、複数から選ぶことができ、大晦日は、昔からの慣習を重んじて全利用者が入浴できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	一人ひとりの習慣に合わせて就 寝時間、起床時間、午睡等は自 由にしている。夜間は2時間に1 回の巡視を行うが、起こさない 様に扉の小窓から覗く等の配慮 も行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	内科往診にて、主治医から処方 があった段階で看護職員から、 管理者や介護職員に報告と説明 を行い、情報の共有に努めてい る。服薬後の小さな状態変化 についても看護師、管理者に報 告し、主治医に連絡する等の対 応を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	一人ひとりの生活歴・好きな事 に合わせて、園芸やレク生活作 業等を提供している。また、そ の人の気分に合わせて、レク 等も無理強いせず自由参加と している。また、一人になれる 時間も大切に、居室で過ごされ ている際には、おやつ提供の時 間をずらしたりと柔軟に対応し ている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける られるように支援している。	日頃から近隣へ、個別や少人数 での散歩を行っている。入居者 からの希望があれば職員間で検 討したのち日程調整を行い、個 別対応や外出レクとして希望が 反映出来る様に努めている。コ ロナ渦で難しい部分があるが、 感染者が少ない時に『梅摘み』 『三矢の里』等の外出支援を行 った。	新型コロナウイルスの感染者が 減少した時期に、全利用者が車 で外出し、産直市場のドリンク バーで好みの飲み物を飲むこと ができた。日頃から近隣で育て ている花を見せてもらい会話を したり、1階のテラスでおやつを 食べたり、事業所の敷地内で外 気浴ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	入居者本人が紛失のリスク等か ら金銭の管理していないが、ご 本人様の要望で使用できる金銭 を金庫にて預かって随時対応し ている。欲しいものがある際は 、一緒に買い物に行く等してい る。コロナ渦の為、現在は職員 のみで行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 1階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を行う場合、支援している。連絡が十分に伝えることができない方は、管理者からご家族に行い間違いの無い様に伝達支援に努めている。また、本人管理の携帯電話を持っている入居者も数名おり自由に連絡をとられている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアには常に清潔を保ち、落ち着いた雰囲気になる様に努めている。季節の飾りや、制作物を飾り、季節感や生活感が感じられるように工夫している。また、フッドマッサージ機があり、居心地よくくつろいだ空間になる様に配慮している。	リビングは、照明器具と自然採光で明るさが確保されており、ほとんどの利用者が、日中はリビングで過ごしている。室温は温度計で確認し管理しており、加湿を目的として室内に洗濯物を干す事もある。お雛様のちぎり絵等を利用者と職員で制作し、壁に飾り季節感を取り入れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなる様工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧できるように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、自宅等で実際に使用していた家財の持参を可能な限りお願いし、在宅生活の延長線を意識した居室作りを行っている。配置は、動線を確保し、入居者様と一緒に使いやすい様に設置している。また、状態に合わせて配置等の変更も随時行っている。	利用開始時は、利用者が自宅から使い慣れた筆筒を持参し、家族とも相談しながら配置している。壁には家族の写真や押し花の作品等が飾られている。部屋の換気や消毒、清掃は毎日実施し、湿度が低い場合は、濡れタオルを室内に干し加湿するなど、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーで、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っていたりしている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目( 1階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各階に理念、行事計画を常に目に入る位置に掲示している。会議等の前には、参加職員で唱和し、理念の共有、行事計画の理解を図っている。また行事計画の進捗状況については、会議等で振り返り、評価を行い日頃の業務に活かせる体制を整えている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の自治会と連携し、とんど等の地域行事や近隣の保育園、小学校の行事に参加し地域との交流を積極的に図っている。今年もコロナ渦により、地域の行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加出来ない現状がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	不定期ではあるが、サロンでの認知症講座への職員派遣や地域での認知症サポーター養成講座に手伝いとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、利用者様の動向等を家族代表や地域代表、行政へ報告しサービス状況等を把握して頂いている。また、地域連携が出来そうな行事や催し物等の情報を互いに収集しあい連携を図っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	推進会議の開催通知を、広島市社会局介護保険課事業者指導係宛てにFAX送信している。その他には安佐北区役所生活課の担当者と、生活保護を受給されている居者の状態や様子等を連絡し、情報共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する委員会の設置と、研修委員によるOJTにて研修を行い、職員に周知理解を図っている。また「身体拘束をしないケア」を事業所全体で取り組んでおり、スピーチロックも含め本人の行動を理解し、ケアの工夫により対応している。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止に関する研修を研修委員によるOJTにて行い、職員に周知理解を図っている。また職員同士で入居者への言葉遣いや態度についての話し合いをしている。虐待防止委員会を設置している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内において、現任研修という形で全職員を対象に成年後見制度等について、研修を実施している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に重要事項を説明し、契約後の疑問や、質問に細かく答えている。また、面会時や電話での対応も行っている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	介護サービス計画書の承諾をいただく時に要望、意見を伺っている。また、サービス担当者会議に欠席された家族様にも要望や意見を伺える様に書類を送付している。意見や要望書は、ファイリングする事で、職員がいつでも見れる状態にし、周知徹底を図っている。		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>2ヶ月に1回の法人運営推進会議にて、フロア会議や普段の業務内で出た職員からの提案や意見を、会議内で伝え反映出来る様に取り組んでいる。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の人事考課制度を行っている。また、グループホーム内で管理者とは別に、フロア担当という役割を設け、日頃からの悩みや要望等を話やすい職場環境になる様に、普段から調整している。管理者による職員の面談も必要に応じ行い、やりがいをもち、働きやすい職場になるように努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>法人からOJTでの研修資料が配布されている為、毎月項目に応じた研修を行っている。また随時、職員のレベルや悩みに応じてケア会議にて、話し合い統一したケア方法となる様に情報共有に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>法人内の各事業所とは、委員会や行事等を通じて、ネットワーク作りを行っているが、法人がOJTでの研修体制となり、集合研修を実施していない。またコロナ渦の影響もあり以前より少なくなっている。法人外とのネットワークはあまり作られていない。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人と家族の意向、要望、不安点などを、聞き安心して生活で来るように、職員間で情報共有に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居時に家族の思い、要望、不安を伺い少しでも疑問に思ったことは、いつでも聞いていただけるよう面会時や電話での個別対応も行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時にご家族、本人からの要望やフェイスシートに記載されている内容や、相談員、ナース等の多職種からも話を聞き、サービス計画に反映させ対応している。また、職員間で、話し合いより適切なサービスを見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者にとって家族の様に何でも言える関係を築けるように、常に情報収集と情報共有に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族と連携し、家族と共に本人を支えて行くよう努めている。面会の少ない家族にも普段の様子が伝わる様に写真と短文を添えて定期的に手紙を出している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族様・知人等、気軽に面会出来る体制を整えている。面会時は個室で気兼ねなく話が出来様に配慮している。家族との外出や外泊もあり、馴染みの人の関係が継続出来る様に支援している。コロナ渦の影響による面会や外出制限があるが、本人の意向に応じ電話や手紙等も出せるよう配慮し、関係が途切れないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者一人ひとりの個性に合わせて支援すると共に、可能な限り一緒に出来る事はしていただいている。状態に応じて作業スペースや内容を分ける事も行っている。普段の生活やレクで関わりが円滑にすすむように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了だとしても、その後の様子を確認したり、時には施設や病院に訪問したりと継続した関係性を保つよう支援している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの意向、希望を介護サービス計画に反映し、均一的な介護サービス計画にならない様に努め、日々のケアにも取り入れている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や趣味を家族、本人から聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援に努めている。また生活歴にとらわれ過ぎない様に注意し、新しい事にも挑戦出来るよう促している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活リズムを把握する事から始め、24Hシートに個々の生活リズムを記載する事で一人ひとりに合った、1日の過ごし方が出来るよう本人の思いを、汲み取り支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人、家族の意向、要望を聞き取り、また担当職員、必要に応じ医療機関、専門職の意見も取り入れ、介護計画作成者が作成、モニタリングし均一でなく、その人らしい介護サービス計画になるよう、反映させている。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々に24Hシートに記録し、日々の変化、気付きを職員間で共有する事で、より良い介護が出来るよう努めている。また、毎月居室担当によるモニタリングにて、介護計画の評価も行い、半年で介護計画の見直しを管理者、介護支援専門員、居室担当で話し合い実施している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>一人ひとりの要望を日々のレクリエーションや行事、入浴等に取り入れ幅広く、柔軟なサービスの提供を行い、満足感が得られるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>近隣の保育園、小学校、地域の行事参加、地域の子ども会との交流会等、地域資源を活用している。今年はコロナ渦により、地域行事の中止や保育園、小学校の行事参加の自粛、交流会の中止が続いており、参加出来ない現状がある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時に本人、家族の意向に応じてかかりつけ医を決めている。内科は夜間対応もして頂ける事業所の協力医に変更する事が殆どである。歯科については、協力医が必要に応じて事業所に往診して頂いている。また、他科の受診も希望に応じ職員にて対応しており、安心して医療を受けられる体制を整えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員と介護職員間での情報交換、医療機関との連携を図り入居者の状態に応じて迅速、適切に受診、看護が受けられるよう支援している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、定期的に様子を伺っている。また、早期に退院出来るよう病院関係者と管理者間で情報交換している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、速やかに家族、医療関係と連携し、今後の方針について話し合いを持つようにしている。法人本部と常に情報共有し、状態に合わせて特養入所等も促している。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時の対応については、全職員OJT研修を受け、統一した対応が出来るよう備えている。事故を未然に防ぐ為に、覚え書きや気付き報告書の活用や、ケア会議で情報共有に努めている。また、管理者が24Hオンコール体制を取り職員の不安軽減につとめている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	施設内での火災避難訓練を定期的に実施しており、非常時に備え、メガホン、懐中電灯を常備し、非常食も備蓄している。有事に備えた体制をとっている。また、消防署主催の防火研修に職員が参加している。地域との協力体制を築いている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は入居者に敬意を払い、何事にも本人の気持ちを大切に考えケアに従事している。接し方、声のかけ方についても意識し、日々接遇技術の向上に努めている。プライバシーについては、更衣、排泄時扉を閉める、大きな声で言わない等、基本的な事に配慮し接遇技術の向上に努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや、希望を表現出来るよう、一人ひとりに合わせた声掛けを行い、職員の都合等で判断せず自己決定できるよう努めている。また、言葉で意思表示できない場合は、表情を汲み取りながら希望や好みを把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせたケアを実践し、本人の意向、希望を優先したケアになる様にケア会議での話し合いや、普段の業務内において意見交換を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に服の選択をしていただき、選択できない方にも、その方に合った服を選び身だしなみに配慮している。その際、同じ服を着回しにならない様に努めている。また、定期的に訪問理美容の方に来所して頂いたり、希望に応じ、化粧品等の購入も行っており、身だしなみやおしゃれへの支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	入居者のリクエストに答えながら、カップケーキ・フルーツゼリー・おはぎ等のおやつ作りを行っている。また、事業所内にある畑で収穫した野菜を、メニューに加える等、食事が楽しくなる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>各階入居者に応じた食事形態で提供している。1日の水分摂取量1500ccを目安とし、毎食摂取量を記録して状態把握に努めている。また、毎月初めに、体重測定も行い過度な増減に注意している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後全員に口腔ケアを促している。自分で出来る範囲は自分でしていただいている。義歯洗浄剤のみ職員が実地している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の記録をもとに一人ひとりの排泄パターンを把握し、個別支援を行っている。自立の方は、トイレ間隔が空いている際には自尊心に配慮した声掛けで促している。自分で出来る事は、行って頂き自立に向けた支援を行っている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>できるだけ下剤に頼らず起床時の冷水、水分摂取の促し、便秘予防体操等で腸動を促す事による排泄に努めている。また、排便困難者を覚え書きに書き出し、情報を共有する事で排便確認の徹底や、長めにトイレに座って頂き、腹部に力を入れ様、声掛けを全職員が行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的には週3回の入浴としているが、時間、曜日などはできるだけ希望に添っている。利用者の好みに応じ入浴の順番を考慮したり、季節によって菖蒲湯やゆず湯、入浴剤を使用したりと入浴を楽しんで頂ける様に工夫している。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>一人ひとりの習慣に合わせて就寝時間、起床時間、午睡等は自由に行っている。夜間は2時間に1回の巡視を行うが、起こさない様に扉の小窓から覗く等の配慮も行っている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>内科往診にて、主治医から処方があった段階で看護職員から、管理者や介護職員に報告と説明を行い、情報の共有に努めている。服薬後の小さな状態変化についても看護師、管理者に報告し、主治医に連絡する等の対応を行っている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>一人ひとりの生活歴・好きな事に合わせ、園芸やレク生活作業等を提供している。また、その人の気分に合わせ、レク等も無理強いせず自由参加としている。また、一人になれる時間も大切に、居室で過ごされている際には、おやつ提供の時間をずらしたりと柔軟に対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>日頃から近隣へ、個別や少人数での散歩を行っている。入居者からの希望があれば職員間で検討したのち日程調整を行い、個別対応や外出レクとして希望が反映出来る様に努めている。コロナ渦で難しい部分があるが、感染者が少ない時に『梅摘み』『三矢の里』等の外出支援を行った。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>入居者本人が紛失のリスク等から金銭の管理していないが、ご本人様の要望で使用できる金銭を金庫にて預かって随時対応している。欲しいものがある際は、一緒に買い物に行く等している。コロナ渦の為、現在は職員のみで行っている。</p>		



自己評価	外部評価	項目( 2階 )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望に応じて電話、手紙等の連絡を行う場合、支援している。連絡が十分に伝えることができない方は、管理者からご家族に行い間違いの無い様に伝達支援に努めている。また、本人管理の携帯電話を持っている入居者も数名おり自由に連絡をとられている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共有フロアには常に清潔を保ち、落ち着いた雰囲気になる様に努めている。季節の飾りや、制作物を飾り、季節感や生活感が感じられるように工夫している。また、フッドマッサージ機があり、居心地よくくつろいだ空間になる様に配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人ひとりの性格、関係性に合わせて、席の配置を工夫し、その時の気分にも合わせ、ソファに座る等、居心地が良くなる様工夫している。また、雑誌や歌本、写真アルバムなど自由に閲覧できるように配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、自宅等で実際に使用していた家財の持参を可能な限りお願いし、在宅生活の延長線を意識した居室作りを行っている。配置は、動線を確保し、入居者様と一緒に使いやすい様に設置している。また、状態に合わせて配置等の変更も随時行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	屋内はバリアフリーで、手すりを設置する等、移動は安全に自由に行っている。また自立を促すため、車椅子の方にもその人に合った自操を促している。また、フロア内にはハンガーや洗濯ばさみなどの生活用品も設置し、いつでも生活作業が行える様にしている。		

V アウトカム項目( 2階 ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム（山まゆ）フルーツハウス

作成日 令和4年5月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	41	食べる量や栄養バランス。	栄養低下にならない様に留意する。	果物や雑穀米等の提供 体重管理を行い、過度な増減に注意する。	3ヶ月
2	27	個別の記録と実践。	職員間での情報共有徹底。	24Hシートだけでなく 口頭や覚え書きを活用し、 情報共有行う。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。